

# 通信制高校における遠隔教育の可能性

## Ⅲ 単位認定による可能性

単位認定が可能な科目を設定することによって、小規模な協力校における教育の質の維持・向上に貢献でき、教育の機会均等を柱とした学びの保証につながる可能性がある。

・「ワイドカリキュラム」と「単位認定」による教育の質の維持・向上への貢献が可能となる。

# 通信制高校における遠隔教育の可能性

## IV 遠隔面接に取り組むことによる教員の資質能力の向上の可能性

これまでとは異なる学習形態に取り組むことによって、学習過程や評価・評定、レポートの内容等に大きな影響を与え、面接担当者の教員としての新たなスキルアップにつながる可能性があると同時に、教育の新しいスタイルの構築につながる可能性がある。

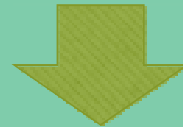
・教育の仕組みの転換点になる可能性、新たな学習システムの確立につながる可能性がある。

# 通信制高校における遠隔教育の可能性

---

教育の仕組みの転換点

新たな学習システムの確立



地理的、時間的制約のない自由な学びの実現へ

# 今、感じている成果

- 生徒 習熟度展開が出来、学力向上につながっている。  
新鮮な興味関心があり、これまで以上に授業に集中できている。  
モニター越しに自分の考えや答えを伝えるため、普段以上のコミュニケーション能力が必要になっていて、おもしろい、楽しいといった反応も、上手に表現できるようになってきている。
- 教員 教科担当が1名しかいない学校では、遠隔の取組を行っている と、自然と教科に関する教員研修になっている。  
他教科を支援することによって、自分の専門教科での授業の改善の視点が持てている。

## 課題・留意事項等

---

- 対面することの意義を踏まえ、教員をカットし、コストダウンを図るために「遠隔教育」を導入するのではないと認識。
- あくまでも、学校教育の範疇としての実践研究という前提の認識が必要。
- 従って、今のところ、コストダウンにはつながらないと判断。
- 教育の質の維持向上を図るためには、一定程度のコストは当然と認識。

# 課題・留意事項等

## ●コスト

### 1 教員

発信側の教員と受信側の教員 最低2名体制が、直接対面授業に遜色ない遠隔面接を行う場合に必要。(特に、配信側の教員は、勤務校の業務も抱えており、教材研究も倍の負担となることが想定される。)

### 2 機器

2セットで一組(2校間)の遠隔授業(面接)が可能

(研究開発に当たっての1セットのリース代は、約60万円前後。モニターのパフォーマンスやカメラの台数等で金額が変動。)

### 3 学校教育における集団性の育成

(例)体育や家庭科、さらに理科の実験等は、直接対面授業が望ましいが、その他に、遠足や学校祭などの特別活動が人間形成に果たす役割がきわめて大きいことなどを踏まえることが必要。

※ 遠隔教育の狙いや実践研究の成果等を踏まえた議論が重要であり、コストカットするための議論にならないよう、気を付けていきたい。

# 遠隔授業 16校のチャレンジ

## ★礼文高校外4校研究開発学校チーム

遠隔授業配信高校 7校（岩内、倶知安、函館中部、釧路湖陵、稚内、紋別、有朋）

5教科7科目（国語、数学、英語、理科、書道）

遠隔授業受信高校 5校（礼文、阿寒、南茅部、常呂、平取）

## ★有朋高校研究開発学校チーム

遠隔面接配信高校 1校（有朋）3教科4科目（地歴、理科、情報）

遠隔面接受信高校 3校（富良野、稚内、中標津）

※16校による遠隔授業の取組はこれからが本番です！